

自動車～転機を迎えるわが国自動車メーカーのディーゼルエンジン開発

わが国自動車メーカーが、国内向けディーゼルエンジン乗用車(以下、DE車)の車種数削減を進めている。ここにきて、各社とも、RV車のDE搭載モデルを相次いで廃止しているほか、セダン系でも順次DE車を削減していく意向を表明している。

これは、DE車の国内需要が急減している(図)のために他ならない。わが国では、一般ドライバーの走行距離が短く、DE車の燃費の良さが大きな利点とはなりにくいとあって、騒音や振動などの欠点が強調されがちであったうえ、ここ数年は、排ガス中の有害物質が多い点が問題視されたことから、需要減少に拍車がかかったのである。

しかしながら、海外や将来の市場をみると、足許の国内DE車市場の縮小とは裏腹に、この先DE開発の重要性は、むしろ高まっていく可能性が高いとみられる。

まず、欧州市場での拡販にはDE車の投入が不可欠となっている。元々、同市場では、一般ドライバーの走行距離が長いうえに燃料費も割高なことから、燃費の良いDE車への潜在的なニーズが高い。そうした状況下、90年代後半以降、技術革新により騒音や振動などの問題が大幅に改善してきたことを受けて、DE車の販売台数が急速に伸びている。

さらに、長期的にみれば、日米市場でもDE車の需要が拡大に転じる展開が予想される。今後は、排ガス浄化技術の進歩によって、DE車の排ガスは現行のガソリンエンジン車並みにクリーン化が進む一方、各

国とも、地球温暖化の防止に向けてCO₂の排出量削減を迫られることになる。このため、燃費が良くCO₂の排出量が少ないDE車は、CO₂削減を推し進める手段のひとつとして急浮上してくることが充分想定される。

一方で、DE開発の技術・資金面でのハードルは、一段と高くなる。今後、DE車を販売するには、段階的に強化される排ガス規制をクリアーしていくために、様々な排ガス浄化技術の研究開発を同時並行で進めていかなければならず、多大な開発投資が必要となる。このため、生産台数を増やして1台当たりの開発費を低減させることが欠かせないが、わが国メーカーの場合、欧州市場で大量のDE車を販売する欧州メーカーに生産台数で大きな差をつけられており、一朝一夕にキャッチアップを果たすことは難しい状況となっている。

今後、各社では、DE開発も競争力を左右するポイントになるとみられるだけに、他社との提携も含め開発力強化に向けた取り組みが求められよう。(7.17 松岡 純一)

図：わが国のディーゼル乗用車需要の推移

